

足立区議会 自由民主党

討論者



古性 重則
委員

本年1月に、昨年に続き2度目の緊急事態宣言が発出され、日本経済に与える影響が懸念されている。政府も、令和3年2月の月例経済報告で「景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にある中、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。」としており、区内中小企業の景況調査からも、深刻な状況が浮き彫りとなっている。

このような状況の中、令和3年度予算は「乗り越え、そして踏み出す。あだちから」と名付け、新型コロナウイルス感染症対策の強化を継続しつつ、難局を乗り越え、変貌を遂げる足立のまちとともにコロナ禍の先へと果敢に踏み出すための予算となった。

新型コロナウイルス感染症対策、新しい生活様式への対応促進に加えて、令和3年

度の竹ノ塚駅付近鉄道高架化、大学病院開設等のエリアデザイン計画推進、区立小・中学校の改築等を着実に進めるとともに、今後の厳しい財源見通しを踏まえ、公共施設の建設・改修工事の先送り、経常的経費1%削減等、歳出を抑え財源捻出に努めた予算となっており、一定の評価をする。

なお、本委員会において、我が党委員が指摘した、新型コロナウイルスワクチン事業の円滑実施、予算編成について区民目線の情報発信、保育政策の改善、区の魅力のさらなるアピール、ながらスマホ条例の周知啓発及びスマホ依存症対策、バンケット施設の誘致、学力向上対策、竹ノ塚駅高架下利用、持続可能なまち足立の構築、職員の不祥事に対する再発防止の徹底、姉妹都市交流事業の拡大、家庭教育の充実、認知症予防、保育施設の施設更新、災害対策等、様々な提案及び要望事項については、本予算の執行と今後の区政運営に確実に反映するよう強く要望する。

足立区議会 公明党

討論者



大竹 さよこ
委員

足立区では新型コロナウイルス感染症対策として15回に渡る補正予算を組み、医療体制の整備等を行ってきたが、区内経済は深刻な状況が続くと予想される。

区は前例のない事態に直面する中で、令和3年度予算を「乗り越え、そして踏み出す。あだちから」と名付け、コロナ禍の先へと果敢に踏み出すための予算を編成した。

予算編成では、新型コロナウイルス対策として、医療最前線を支える施策を継続し、3割のプレミアム付商品券の発行等、区内経済の支援をしていくとしている。

エリアデザインでは、東京女子医科大学足立医療センターのオープン等、大きな節目の事業の完成が続く。

交通不便地域解消に向けたバス検証運行等、交通弱者対策に取り組むとしている。

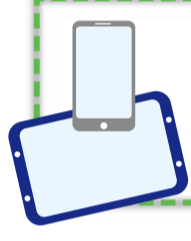
「あだち子どもの未来応援基金」を創設し、学習支援や子ども食堂等の活動団体への助成制度や児童養護施設等から巣立つ子どもたちの支援をするとしている。

「新しい生活様式」を踏まえた区民サービスとしてICTを活用したオンライン申請手続き等、区民ニーズに沿った行政サービス向上に努めて頂きたい。

区民の命と財産を守るため、地震対策のみならず水害対策の強化により、防災・減災対策のさらなる推進を求める。

最後に、本委員会が我が党の委員から指摘し要望した、新型コロナウイルス感染症対策とワクチン接種体制の整備、防災減災対策、高齢者支援のさらなる充実、人権を守る区の姿勢、中小企業支援、子育て家庭への支援、学力向上施策、不登校支援、図書館サービスの拡充、障がい者支援等の提案や要望については重く受け止め、新年度予算の執行やこれからの区政運営に反映されることを強く求める。

予算特別委員会の 討論(要旨)



令和3年予算特別委員会の映像を区議会ホームページでご覧いただけます。
右の2次元バーコードからスマートフォン・タブレットでも視聴できます。
※令和3年10月に開会予定の決算特別委員会についても、YouTubeでインターネット生中継を行いますのでぜひご覧ください。



※予算特別委員会委員の名簿と委員会の審査結果は8面に掲載しています。

日本共産党 足立区議団

討論者



きたがわ 秀和
委員

令和3年度一般会計予算は過去最高の3千120億円を計上し、さらに積立基金は令和2年度末見込みで1千749億円となった。

新型コロナウイルス対策経費は47億円を計上と言いつつも、区の独自予算はわずか26億円に過ぎず、予算全体を概括すれば、コロナからののち・暮らしを守るよりも開発優先の予算と言わざるを得ない。

高齢者事業の見直し・再構築と称して生きたい奨励金廃止を打ち出したが、65歳以上のインフルエンザ予防接種無料化は新規事業でなく、紙おむつ支給要件の緩和も23区最低の支給要件は変わらない。はるかぜ車両購入費補助、特養ホーム増設までも再構築・見直しの結果のように言うが、生きたい奨励金廃止前にすでに決められていたものばかりで、廃止の理由にすらならない。地方の小さな自治体ですら取り組んでいる直接支援も冷たく拒否し、ひとり親世帯への支援も、予算に新たな施策は盛り込まれていなかった。

わが党は、21事業・計21億円の拡充事業を、不急事業の先送りと財政調整基金の取り崩しで実施する予算の組み換え提案を

への危険手当等支給、オンライン申請システムの導入、就学が困難な学生への貸付支援等、様々な施策が打ち出されている。

さらに、ICTを導入し行政サービスの利便性向上の推進、文教大学の開学、東京女子医科大学附属足立医療センターのオープン、竹ノ塚駅踏切解消を中心にあたためてきたエリアデザイン計画の開花等、コロナ禍にあっても明るい道筋を示すものとなっている。

また、青色パトロールカーの増車、小中学生英語力向上事業の強化、とうきょうママパパ応援事業補助金活用事業等、区民要望にも力点を置いた予算編成を評価する。

行った。どれも実現可能なものばかりであり、今後の施策にぜひ生かすべきである。

国民健康保険特別会計予算は、一人あたり保険料は令和2年度よりも3千697円値上げとなり、全体として値上げと言わざるを得ない。20年前と比べてすでに2倍以上の負担であり、これ以上の値上げは加入世帯の暮らし破壊を招きかねず、認められない。

介護保険特別会計予算は、値上げ幅は抑えられたが、「23区で一番高い保険料」であることに変わりなく、到底認められない。

区に対しては、なによりも区民のいのちと暮らしを最優先で守るという立場で施策を進められることを改めて強く求める。

足立区議会 立憲民主党

討論者



銀川 ゆい子
委員

令和3年度予算は「乗り越え、そして踏み出す。あだちから」と名付け、新型コロナウイルス対策強化を最重要施策に掲げ、エリアデザインのさらなる飛躍、新たな区民サービスの向上策等に積極的に取り組む。コロナ禍のその先を見据えたものである。

新型コロナウイルス対策では、住居確保給付金事業や入院患者医療費の公費負担、あだち30買利物券の発行や緊急経営資金融資、患者に対応する医療従事者・医療機関

今後の各種事業や予算の削減が案じられるが、区民生活への影響が最小限に抑えられることを求める。

また、我が会派から指摘した、高齢者の住まいの確保、福祉事務所のケースワーカー増員、生活保護廃止問題の徹底究明、コロナワクチン接種対策の強化、新たな協創の取組推進、千住大橋地域の公園設置及び更地活用、区内すべての公園・児童遊園への防犯カメラの設置、キッズゾーンの整備、とうきょうママパパ応援事業補助金活用事業への子ども向け区内商品券への転用、学童保育室の円滑な運営、老朽化している住居センターの改修等を強く要望する。

育費の確保支援策、また、とうきょうママパパ応援事業拡充策が組み込まれたことも大変高く評価している。

足立区は、多様な人が集まる都市部という地の利からも、LGBTのみならず、いわゆる少数派の特性を持った人であっても暮らしやすい、誰からも選ばれる足立区を目指し、多様性社会の構築に向けた取り組みを行い、今後も積極的に国や東京都の補助事業を活用し、想像力と知恵と工夫をもつて、実効性ある施策を戦略的に展開することを切に要望したい。

本委員会での質疑をまとめて次のことを指摘する。

足立区議会 議論を全力 で推し進める会

討論者



長谷川 たかこ
委員

新型コロナウイルス感染症の長期化に伴い、限られた財源の中、選択と集中の考えのもと、今まで以上に事業目的を明確化し、最大の事業効果を発揮するよう、事業評価の中での検証を徹底することが重要である。持続可能な財政運営を行うために、将来を意識した計画的な予算編成を行うことが必要である。

区民要望であった子どもを産み育てやすい新たな制度が予算案に盛り込まれた。養

ペARENTメンター事業展開について、発達障がい者・家族支援について、発達支援に課題のある子どもと親に対する支援の拡充について、子どもの能力を伸ばすユニバーサルデザインの教育について、読み書きに困難を抱える子どもたちに対する支援について、不登校支援について、子どもを産み育てやすい新たな制度について、3歳児における目の疾病及び異常の早期発見・治療の実施体制の確立について、子どもの育ち支援について、文化芸術の支援について。

以上、委員会での議論の内容を十分に念頭に置き、執行されることを強く要望する。

育費の確保支援策、また、とうきょうママパパ応援事業拡充策が組み込まれたことも大変高く評価している。

足立区は、多様な人が集まる都市部という地の利からも、LGBTのみならず、いわゆる少数派の特性を持った人であっても暮らしやすい、誰からも選ばれる足立区を目指し、多様性社会の構築に向けた取り組みを行い、今後も積極的に国や東京都の補助事業を活用し、想像力と知恵と工夫をもつて、実効性ある施策を戦略的に展開することを切に要望したい。

本委員会での質疑をまとめて次のことを指摘する。